

日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について

中澤 信幸

(文化システム専攻言語科学領域担当)

岩城 裕之

(呉工業高等専門学校准教授)

是澤 範三

(京都精華大学講師)

はじめに

台湾をはじめとした東アジアでは、日本語が多くの人々に学ばれている。その日本語には「漢語」が多数含まれるが、これは中古中国語を起源とした借用語である。一方、台湾語は中国閩南方言を起源としているが、その発音は現代北京語音とは異なり、中古中国語音の特徴を多く保存している。

台湾における日本語教育では、台湾の国語とされる北京語との対照が行われるが、北京語音と現代日本漢字音の発音は乖離しており、それが日本語学習者の壁ともなっている。一方、台湾語音には、無声・有声の区別、入声韻尾の存在など、現代日本漢字音と共通の特徴が多く見出されるが、これはともに中古中国語音の特徴を保存していることによる。しかしながら、台湾における日本語教育では、台湾語音のこの特徴を生かした教育は行われていないのが現状である。そこで本稿では、日本漢字音と台湾語音とを対照させた「日台基本漢字」発音対照表を構築し、それによって台湾語音を利用した日本語教育の新しい発音学習の可能性を示すことにする。

1 日本漢字音と台湾語音

1.1 日本漢字音について

古代の日本は中国より数多くの文物を取り入れたが、それと同時に借用語として多くの漢語を取り入れた。このような借用語は日本語だけでな

く、朝鮮語・ベトナム語にも見られるものである。

日本の漢語の音である日本漢字音には、複数の層が存在する。すなわち「呉音」「漢音」「唐音」である。

呉音は、六朝期の中国語音が日本に伝えられたとする説、複数の時代や地方の音が伝えられたとする説、また朝鮮漢字音が介入しているとする説がある。いずれにしても資料の限界もあり、その母胎音や伝来経路は明らかではない。

漢音は、中国隋・唐代北方音が、遣隋使・遣唐使を通して伝えられたものである。中国から正式なルートで伝えられたため、当初は「正音」とも呼ばれた。朝廷や大学寮などで用いられ、漢籍の読書音として定着していった。一方、古くからの漢字音は「和音」(後に呉音)と呼ばれ、仏教界において經典の読誦音として存続することになる。

なお、唐音は鎌倉時代以降に禅宗によってもたらされたものであるが、すでに呉音・漢音が定着した後であり、個別語の音として定着するにとどまった。

呉音はおおよそ六朝期の、漢音は隋・唐代の中国語音が伝えられたものであるが、この時期は中国語音韻史では「中古期」ということになる。したがって、日本漢字音は中古中国語音が母胎となっていると言える。

1.2 台湾語音について

台湾で話される台湾語は、中国の閩方言の一つ

である閩南方言が、漢族の移住に伴って伝えられたものである。福建省の泉州と漳州の言語が伝えられたものとされている。

閩方言は、中国の中古期に南下してきた人々の言語の影響を多分に受けている。そのため、現代台湾語には、北京語では失われた無声・有声の区別、入声韻尾の存在など、中古中国語音の特徴が多く見出されるのである。

「言語類型地理論」¹によれば、インド・ヨーロッパ語（牧畜民型の言語）は、民族が大陸を広範囲に移動したため、いわゆる「基礎語彙」が共通しているのに対し、アジア諸語（農耕民型の言語）は、民族が定住していたために「基礎語彙」はそれぞれ異なるものの、抽象的な、あるいは文化的な語彙は共通しているという。これに従うならば、かつての文明国家である古代中国の語が、中国南方、さらには台湾、そして日本・朝鮮・ベトナムにも伝えられたということになる。その意味では、台湾語と日本漢語は共通する要素を保持していると言えよう。

台湾語音には日本漢字音と同様、複数の層が存在する。すなわち「読書音」（文言音）と「俗音」（白話音）である。これはもともと俗音が存在した地域（現在の福建省）に、中央（北方）から新たな読書音が伝来したことに由来しており、その意味では日本の呉音・漢音の伝来とよく似ていると言えよう²。

1.3 日本語教育における台湾語音活用の可能性

以上のように、日本漢字音と台湾語音には、無声・有声の区別、入声韻尾の存在などの共通した特徴が存在する。これらは現代北京語音には存在しないものである。そこで、台湾における日本語教育では、日本漢字音を台湾語音と対照させるのが効果的である。しかしながら、実際の日本語教育においては、台湾の国語とされる北京語とのみ

対照が行われるのが実情である。そのため、日本漢字音における無声・有声の区別、入声韻尾の存在などが、台湾人日本語学習者にとっては壁になってしまっている。

日本語教育において台湾語音を活用すれば、学習者のこのような労力を軽減させることができるはずである。ここに、日本漢字音と台湾語音とを適切な規模で対照させた一覧表の作成が期待されるのである。

2 現代版「日台字音便覧」データベース

2.1 『日台大辞典』について

『日台大辞典』およびそれに付載される「日台字音便覧」については、中澤（2010）および（2011）ですでに述べた通りであるが、ここで改めて概要を述べておく。

『日台大辞典』の編纂は台湾総督府の編修官だった小川尚義を中心に進められ、1905年（明治38）に脱稿した。出版されたのは1907年（明治40）のことである。

『日台大辞典』では冒頭に伊藤博文による題字、台湾総督府民政長官の後藤新平による序文が付けられ、「台湾言語分布図」「台湾語数詞比較表」の後に「日台大辞典緒言」が212頁にわたって付けられる。この「緒言」は台湾語に関する初めての精緻な研究として、中国語研究史上でも特筆されるべき内容である。その後「台湾語ノ発音」が18頁にわたって付けられ、「凡例」の後に本編である「日台大辞典」が続く。本編は1,184頁におよぶが、その後に「画引日台字音便覧」が66頁にわたって続く。その後「百家姓」「台湾地名」「旧台湾度量衡附貨幣、時間」「血族ニ対スル称呼」と続き、最後に小川尚義による「本書編纂ノ顛末」で終わる³。

2.2 「日台字音便覧」について

「日台字音便覧」は『日台大辞典』の本編に続く

¹ 橋本萬太郎（1978）参照。

² 日本漢字音の漢音・呉音と台湾語の読書音・俗音との関係については、中澤（2012）参照。

³ 『日台大辞典』の編纂と内容に関しては、村上嘉英（1966）および（2004）参照。

もので、正式な名称は「画引日台字音便覧」である。その名の通り漢字が部首の画数順に排列され、それに日本漢字音（漢音・呉音）、韻（平水韻）、台湾語音が記される。台湾語音は第1段に読書音、第2段以降に俗音が、それぞれ厦門音と漳州音とに分けて（または厦門・漳州共通音として）片仮名で示される。全部で66頁あり、1頁あたり6段、1段あたり19行で、1行ごとに1字の掲出漢字、および漢字音等が掲載される。掲出漢字は全部で7,283字におよぶが、352字については「同〜」「俗〜字」のような異体字注記となっており、音注は付されない。したがって音注が付される字は6,931字となる。

なお、『日台大辞典』巻末の小川尚義による「本書編纂ノ顛末」には

此他、本書ノ巻首ニ附シタル臺灣言語分布圖、同言語表、臺灣語ノ發音、及ビ巻尾ニ附シタル日臺字音便覧ハ予ガ起稿ニ係リ、(p.4)

という記述がある。これによれば、「日台字音便覧」は小川尚義自身によって編集されたということになる。

2.3 「日台字音便覧」データベースの作成

『日台大辞典』は台湾領有という時代の要請の中で、必要に迫られて作られた実用的なものである。しかしながら、その内容は日本語と台湾語とを対照した、初めての本格的な台湾語研究であった。付載の「日台字音便覧」も、日本漢字音と台湾語音との初めての総合的な対照研究と言える。厦門音と漳州音のみで泉州音が載せられていないという問題はあつたものの、「日台字音便覧」は当時の台湾語音を知ることのできる貴重な資料でもある。

この先人の遺産とも言うべき「日台字音便覧」であるが、紙媒体の状態では部首の画数順での検索しかできず、使い勝手は良くない。これを活用するためには、現代のパソコン技術を利用したデータベース化が有効である。

そこで本稿の筆者たちは、まず「日台字音便覧」

の内容を Microsoft Excel に入力することで、「日台字音便覧」データベースを完成させた。この時点では明治時代の「日台字音便覧」に基づいたため、台湾語音は片仮名で記されていた。しかしそれでは、台湾人にとっては使い勝手が良くない。そこで台湾語音のローマ字表記（臺灣閩南語羅馬字拼音方案）を追加することで、台湾人にも使いやすい現代版「日台字音便覧」データベースを完成させた。これで日本漢字音と台湾語音との総合的な対照研究が可能となったのである。

3 「日台基本漢字」発音対照表の構築

3.1 文字の選定

現代版「日台字音便覧」データベースは、現代の日本語と台湾語との対照研究の基礎資料である。しかしながら、その文字数は7,283字（音注が付されるのは6,931字）におよぶため、日常の日本語教育に利用するには不便である。1.3 で述べたような、「日本漢字音と台湾語音とを適切な規模で対照させた一覧表」とするためには、その文字数を適切な方法で絞り込む必要がある。

そこでまず、台湾でも広く使われている日本語教科書『みんなの日本語 初級Ⅰ』『みんなの日本語 初級Ⅱ』（スリーエーネットワーク、初版、1998）に出てくる日本語の漢語をピックアップし、それに対応する台湾語を記載してデータベース化することで、「日本語漢語基本語彙・台湾語対照表」（717語）を選定した。そしてここで挙げられた日本語の漢語および台湾語で使われている漢字を、現代版「日台字音便覧」データベースからピックアップした。

これに加え、台湾の教育部から公布されている「臺灣閩南語推薦用字700字表」に挙げられた漢字も、現代版「日台字音便覧」データベースからピックアップした。その結果、文字数は1,169字に絞り込まれ、これをもとに「日台基本漢字」発音対照表を構築することにした。

語羅馬字拼音方案使用手冊⁴において、ローマ字に併記されている注音符号はそのまま使い、注音符号が併記されない場合はローマ字（臺灣閩南語羅馬字拼音方案）で代用して表記することにした。

3.3 北京語音の追加

一方、中国語の発音としては北京語音が広く普及している。台湾では国語として位置付けられ、日本でも中国語教育を通して普及している。そこで「日台基本漢字」発音対照表では、相互対照の補完として北京語音も加えることにした。北京語音表記としては、大陸および日本で用いられるピンイン、および台湾で用いられる注音符号を併記した。これによって、台湾語音にはあまり馴染みのない日本人にとっても、使いやすい対照表となる。

3.4 「日台基本漢字」発音対照表の可能性

このようにして構築した「日台基本漢字」発音対照表（→図1）には、さまざまな可能性がある。まず台湾における日本語教育では、この対照表を活用することにより、台湾人日本語学習者が日本漢字音を習得する上での壁がなくなり、学習効果もあがることが期待される。

また日本人に対しては、日本漢字音と北京語音とともに台湾語音を示すことで、これまで馴染みのなかった台湾語音に親しむことが可能となる。その上で、台湾語音が北京語音よりも日本漢字音に近い関係にあることが理解でき、日本人にも台湾語が普及することにもつながる⁵。そして日本人と台湾人との、発音上の円滑なコミュニケーションも可能となるのである。

4 日本語教育における実践に向けて

さて、このようにさまざまな可能性がある「日台基本漢字」発音対照表であるが、データベース

の状態では実際の日本語教育には生かしくいという問題がある。ここでは日本語教育における実践に向けて、具体的な方法を提案する。

4.1 日本語教科書に合わせた副教材

日本語教育で実際に「日台基本漢字」発音対照表を生かすためには、これをもとにして日本語教科書に合わせた副教材を作成するのが早道であろう。そこで本稿では、その副教材のサンプルを提示する。

| | |
|-------|--|
| 学 (學) | 漢音 カク 呉音 ガク 北京語音 xue ㄒㄨㄛˊ (2声) 読書音 ハク hak hak ㄏㄚˊ ㄩㄝˊ (下入 8声) 俗音 オヲ oh oh ㄛ ㄏ (下入 8声) |
| 生 | 漢音 セイ 呉音 ショウ (シャウ) 北京語音 sheng ㄕㄥ (1声) 読書音 シェン sing sing ㄕㄥˊ (上平 1声) 俗音 チ・イ (鼻) tshinn chhi ⁿ チー nn (上平 1声) (厦) シイ (鼻) sinn si ⁿ ムー nn (上平 1声) (漳) セエ (鼻) senn se ⁿ ムせ nn (上平 1声) |
| 会 (會) | 漢音 カイ (クワイ) 呉音 エ (エ) 北京語音 hui ㄏㄨㄟˋ (4声) 読書音 (厦) ホエ hue hue ㄏㄨㄟˋ (漳) ホエ hue hue ㄏㄨㄟˋ (下平 7声) 俗音 (厦) ヘエ he he ㄏㄟˋ (下平 7声) オエ ue ue ㄨㄟˋ (下平 7声) (漳) エエ e e ㄟˋ (下平 7声) |
| 社 | 漢音 シヤ 呉音 セ 北京語音 she ㄕㄟˋ (4声) 読書音 シア sia sia ㄕㄟˋ (下平 7声) |
| 員 | 漢音 エン 呉音 キン 北京語音 yuan ㄩㄢˊ (2声) 読書音 オァヌ uan uan ㄩㄢˊ (下平 5声) 俗音 イイ (鼻) inn i ⁿ ー nn (下平 5声) ゴァヌ guan guan ㄍㄨㄢˊ (下平 5声) |

※台湾語音（読書音・俗音）は、片仮名、「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」、「白話字」、「注音符号」の順に表記する。

図2 「学生」「社員」の日台発音対照

⁴ 中華民国教育部, 2008年。

⁵ 現実的には、台湾在住の日本人妻が相手方の舅・姑と話すために台湾語を学習するケースがある。

| 日本語 | 熟語例 | 台湾語 | 北京語 |
|-----------------------|--|--|-------------------------------------|
| 学 がく gaku (gak) | 学生 がくせい gaku-sei (gak-se:) | hak ⁸ ㄍㄨㄎ ⁸ oh ⁸ ㄛㄏ ⁸ | xue ² ㄒㄩㄝ ² |
| 生 せい sei (se:) | 学生 がくせい gaku-sei (gak-se:) | sing ¹ ㄓㄨㄥ ¹ tshinn ¹ ㄊㄩㄢˊ ¹ sinn ¹ ㄓㄨㄢˊ ¹ senn ¹ ㄊㄨㄢˊ ¹ | sheng ¹ ㄕㄨㄥ ¹ |
| 会 かい kai | 会社員 かいしゃいん kai-sya-in kai-sha-in | hue ⁷ hue ⁷ ㄏㄨㄟ ⁷ he ⁷ he ⁷ ㄏㄝ ⁷ ue ⁷ ue ⁷ ㄨㄟ ⁷ e ⁷ e ⁷ ㄝ ⁷ | hui ⁴ ㄏㄨㄟ ⁴ |
| 社 しゃ sya sha | 会社員 かいしゃいん kai-sya-in kai-sha-in | sia ⁷ sia ⁷ ㄓㄨㄚˊ ⁷ | she ⁴ ㄕㄞ ⁴ |
| 員 いん in | 会社員 かいしゃいん kai-sya-in kai-sha-in | uan ⁵ uan ⁵ ㄨㄢˋ ⁵ inn ⁵ i ⁵ ㄢˋ ⁵ guan ⁵ guan ⁵ ㄍㄨㄢˋ ⁵ | yuan ² ㄩㄢˊ ² |

※台湾語音は、「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」,「白話字」,「注音符号」の順に表記する。また台湾語および北京語の声調は数字で示す。

図3 日本語教科書に合わせた副教材のサンプル

『みんなの日本語 初級Ⅰ』⁶の第1課では、最初に「学生」「会社員」といった漢語が出てくる。これらの字については、「日台基本漢字」発音対照表から図2のような情報が得られる。

4.2 副教材のサンプル

これらの情報をもとにして作成した、副教材のサンプルを図3に示す。

この副教材を利用すれば、台湾人日本語学習者は母語である台湾語の知識を生かしながら、日本漢字音を習得することが可能になるであろう。

この方法を用いれば、『みんなの日本語』に限らず、どの日本語教科書でもこのような副教材を作成することが可能である。「日台基本漢字」発音対照表は、そのための基礎資料となり得るのである。

5 おわりに

以上、本稿では日本漢字音と台湾語音とを対照させた「日台基本漢字」発音対照表を構築し、そ

れを台湾における日本語教育に生かすことを提案してきた。ただし、この「日台基本漢字」発音対照表ははまだ試作段階であり、拡張、改良の余地は多々ある。

例えば、ここで示される日本漢字音は江戸時代以来の「字音仮名遣い」に基づくが、これは日本漢字音の実態に即していない面も見受けられる。また片仮名表記のままでは、台湾人にはわかりにくいという問題もある。

加えて、日本語教育における実践に向けての副教材のサンプルを4.2で示したが、その本格的な作成も今後の課題として残されている。

一方、この対照表に、客家語、広東語、上海語、さらには朝鮮漢字音、ベトナム漢字音を加えることで、東アジア全体で利用可能な基本漢字発音対照表へと発展させることも可能である。そして東アジア全体で発音上の円滑なコミュニケーションが可能になることも、夢ではないのである⁷。

※本稿は第二回台越人文比較研究国際研究会 &

⁶ 『みんなの日本語 初級Ⅰ』『みんなの日本語 初級Ⅱ』については、2012~13年に第2版が発行されている。

⁷ 「東アジア共通漢字」一覧の構想については、中澤(2011)ですすでに述べた通りである。

第六回台湾羅馬字国際研討会（台湾・国立成功大学, 2013年5月18・19日）におけるポスター発表（英語）の内容をもとに、加筆修正したものである。

また本稿は平成25年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)「現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築」, 課題番号: 23520544, 研究代表者: 中澤信幸）による研究成果の一部である。

引用文献

- 中澤信幸 (2010) 「『日台大辞典』付載「日台字音便覧」について」, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』7, pp.162-154 (右 pp.1-9)
- 中澤信幸 (2011) 「『日台大辞典』と東アジア共通漢字」, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』8, pp.89-101
- 中澤信幸 (2012) 「日本語の漢音・呉音と台湾語の読書音・俗音」, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』9, pp.59-68
- 橋本萬太郎 (1978) 『言語類型地理論』, 弘文堂, 『橋本萬太郎著作集』第一巻, pp.29-190, 2000
- 村上嘉英 (1966) 「日本人の台湾における閩南語研究」, 『日本文化』45, pp.62-108, 天理大学
- 村上嘉英 (2004) 「日本人の台湾語学習と研究の事始め 一序に代えて一」, 王順隆編『新編台日大辞典』, pp.1-20

参考 「日台基本漢字」発音対照表の凡例

- (1) [掲出字] は「日台字音便覧」からピックアップしたもので、全1,169字である。コンピューターで表せない文字については、[文字 URL] に「e 漢字データベース」(島根県立大学, <http://ekanji.u-shimane.ac.jp/>) の URL を記載した。
- (2) [日本語漢語・台湾語] は、『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク) に出てくる日本語の漢語および対応する台湾語の通し番号である。[700字表] は「臺灣閩南語推薦用字700字表」(中華民国教育部) の通し番号である。

- (3) [部首・画数・頁・段] は「日台字音便覧」における所在を表す。また日本漢字音([漢音・呉音・漢呉共通]) は「日台字音便覧」による。[韻・声調] ([平水韻]) も「日台字音便覧」による。
- (4) [ピンイン(拼音)・注音(符号)・四声] は中国語(北京語)音を表す。
- (5) [読共通] は廈門・漳州共通の読書音, [読厦門] は廈門の読書音, [読漳州] は漳州の読書音を表す。片仮名表記は「日台字音便覧」による。[教育部] は「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」による表記, [白話字] は白話字(POJ, 教会ローマ字)による表記, [注音] は注音符号による台湾語表記である。
- (6) [俗共通] は廈門・漳州共通の俗音, [俗厦門] は廈門の俗音, [俗漳州] は漳州の俗音を表す。
- (7) [備考] には異体字等の情報を記してある。

※この「日台基本漢字」発音対照表データベース(Microsoft Excel ファイル)は、次の web サイトからダウンロード可能である。

Nobuyuki NAKAZAWA Website

http://www7b.biglobe.ne.jp/~nob_nakazawa/

關於「日臺基本漢字」發音對照表應用於日本語教育之可能性

中澤 信幸

（文化系統專攻言語科學領域擔當）

岩城 裕之

（吳工業高等專門學校准教授）

是澤 範三

（京都精華大學講師）

日本漢字音與台灣語語音有區分清濁、存在入聲韻尾等共通點。利用此等共通點，本可期望日本人與台灣人在語言交流中於發音一環能觸類活用。但實際上，台灣的日本語教育是使用北京話授課，故日本漢字音的清濁區別與入聲韻尾等反成台灣人日本語學習者之負擔。

過去小川尚義任職台灣總督府時曾編撰《日臺大辭典》（1907年刊印），當中附有題曰「日臺字音便覽」之66頁漢字音對照表，記載7283字所對應之日本漢字音（漢音、吳音）與台灣語語音（讀書音、白話音，取廈門與漳州音）。此為日本漢字音與台灣語語音間綜合對照之珍貴資料，至今仍具重要參考價值。筆者以此為基礎，完成了現代版「日臺字音便覽」數據庫。「日臺字音便覽」作於明治時代，係用片假名標注台灣語語音，本數據庫則增加了現代台灣通行之羅馬字母標注（台灣閩南語拼音方案）。

然而，若將本資料庫應用於日本台灣兩地人間之語言交流，勢必需要篩選出適當數量之實用字。有鑑與此，筆者曾將日本語教科書《みんなの日本語》中出現之漢字熟語製成數據庫，當中收錄字乃依照「日本語漢語基本語彙・台灣語對照表」（717字）。以此對照表與「臺灣閩南語推薦用字700字表」（教育部）所收漢字合併為基本字庫，而後從現代版「日臺字音便覽」數據庫調出發音，復增教會羅馬字母標注與注音字母標注兩種，遂成「日臺基本漢字」發音對照表數據庫（1169字）。

若能活用此「日臺基本漢字」發音對照表，相信台灣人日本語學習者能輕鬆習得日本漢字音，學習效果當可期待。得益於此，日本人與台灣人語言交流中定能減少發音上的問題，實現更流暢之談話。